

令和2年度第4回柳井警察署協議会会議録

開催日時	令和3年2月18日（木） 午後3時から午後5時までの間	
開催場所	柳井警察署 講堂	
出席者	委員	藤川 祐治、窓原恵美子、伊藤 博之、山田 一男、 福永 進、河村 肇、柳澤 裕実、田代 勉、 川寄真希子 計 9名
	警察署	署長、副署長、警務課長、会計課長、生活安全課長、 地域第一課長兼地域第二課長、地域第三課長、刑事課長、 交通課長、警備課長 計10名
議題	1 警察業務の推進状況 2 協議 (1) 交通指導取締りに係る県民の理解の醸成について (2) 大規模自然災害及び大規模事故災害等緊急事態対策の 推進について	
<p>1 会長挨拶</p> <p>寒い中、令和2年度第4回柳井警察署協議会を開催することができ、良かったと思う。</p> <p>昨年2月、1年前にこの会議で皆さんとお会いした後、新型コロナウイルス感染症で大変な騒ぎとなり、このような事態になるとは思いもしなかった。</p> <p>その後、1年間、柳井警察署協議会も開催できない状態となっていたが、私自身、警察署協議会委員の任期が満了する年であることから、今回の会議は時間を短縮してでも開催したい旨を事務局に伝えていたところ、こうして柳井警察署協議会委員の皆が無事に会うことができ、本当に良かったと思っている。</p> <p>今年度最後の協議会となるので、安全・安心な社会の実現に向けて、活発な意見交換をしていただきたい。</p> <p>2 署長挨拶 (省略)</p> <p>3 業務推進状況説明</p> <p>(1) 警務関係</p> <p>ア 警察安全相談</p> <p>イ 警察署メールマガジン配信</p>		

- ウ 寒稽古
- (2) 会計関係
 - ア 遺失物業務取扱状況
- (3) 生活安全関係
 - ア 犯罪抑止関係
 - イ 被害防止対策（うそ電話詐欺等）
- (4) 地域関係
 - ア 110番・署通報受理状況
- (5) 刑事関係
 - ア 刑法犯認知・検挙状況
 - イ 重要犯罪等認知・検挙状況
 - ウ 特殊詐欺認知状況
 - エ 暴力団犯罪検挙状況
 - オ 薬物事犯検挙状況
- (6) 交通関係
 - ア 令和2年中の交通事故発生状況
 - イ 高齢者の交通事故防止県民運動
- (7) 警備関係
 - ア 警備課の業務
 - イ 国際テロ対策

4 協議事項

- (1) 交通指導取締りに係る県民の理解の醸成について
- (2) 大規模自然災害及び大規模事故災害等緊急事態対策の推進について

5 質疑応答

(委員)

人身交通事故は、14時から16時に発生が集中しているとのことだが、何か理由があるのか。

(交通課長)

この時間帯は、薄暮時の直前で、高齢者や下校時の生徒等、多くの人が動くことが原因ではないかと考える。

(委員)

交差点付近の家に「わたしより信号を見て」などと書かれた看板が設置されているのを見たことがあるが、警察が考えて設置をお願いしているものなのか。

(交通課長)

その看板については、警察がお願いして設置しているものではない。

(委員)

交通事故件数については、山口県全体も柳井警察署管内もほぼ同様に減っているようだが、免許人口が減り、車の台数も減少したことは影響していないのか。

(交通課長)

運転免許保有者数は、若干の減少は見られるがほぼ横ばい状態である。車の保有台数については統計資料がないので、車の台数と交通事故の減少がどのような関係となるかはよく分からない。

(委員)

柳井警察署管内でも可搬式速度違反自動取締装置を使用して速度取締りを行ったとのことだが、何か効果や反響のようなものはあったか。

(交通課長)

通学路等において可搬式速度違反自動取締装置を使用した速度取締りを行ったところ、付近の幼稚園等から「通行する車の速度が落ちた。」などの意見をいただいている。

(委員)

最近は、極端なスピードを出す車を見かけなくなった気がするが、実際のところ速度違反をする者は少なくなっているのか。

(交通課長)

当署では、速度取締りを強化していることもあるが、昨年中の速度違反取締り件数は858件で、前年と比べて410件増加しているところであり、速度違反をした者は少なくないというのが現状である。

(委員)

速度違反の傾向として、どのような年齢層の方が、どの程度の速度超過をしているのか。

(交通課長)

年齢層別の統計資料というものはないが、高齢者が多いように思われ、また、速度違反をする者の大半を規制速度から時速30kmに満たない速度超過で検挙している。

(委員)

広域農道は、時速50kmが規制速度だと思うが、多くの車が時速70、80km程度は出していると思うので、速度取締りを強化してほしい。

(交通課長)

広域農道においても速度取締りを行っているが、速度取締りに適した土地がなかなか見つからないこともあり、頻繁に速度取締りを行うことができない現状があるものの、引き続き速度取締りの強化に向けて検討してまいりたい。

(委員)

やない美ゅーロードにおける速度取締りもお願いしたい。

ところで、多くの運転手は、柳井市内や周防大島町内等の具体的な速度取締り場所を知っているため、その場所では「気を付けてスピードを出さないようにすること」を心掛けていると思うが、交通事故防止の効果は上がっているのか。

(交通課長)

山口県警察では、「スピードを落とす」「気を付けて運転してもらおう」ことなどを目的として、速度取締りの重点路線や実施予定に関する情報をホームページで

公表しているが、こうした情報を知ってもらうことは、速度の抑制や交通事故防止の観点から効果があるものと考えている。

(委員)

山口県警察のホームページで「柳井警察署がこの曜日に速度取締りをする」ことが公表されているが、柳井警察署管内での速度取締り地点の順番のようなものはあるのか。

(交通課長)

速度取締りの実施場所は、柳井市内のみに偏ることなく、田布施町、平生町、上関町、周防大島町のバランスを考えて設定している。

(委員)

速度取締りを事前に知る、知らされるということは、良い意味で交通事故防止につながるものと思う。

(委員)

単にフラッシュが光り、危険ですよと警告するだけでも速度の抑制に効果があるのではないか。

(交通課長)

委員からのご意見は、交通事故抑止を図る上で有効なものとする。

当署においても、この考え方を取り入れており、平生中学校付近の道路は、「ゾーン30」という規制速度が時速30kmの区間に設定されているが、同所においてスピードガンを使用した警告を実施する活動を行うなどしている。

(委員)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて、外出を自粛している人もいると思うが、先日、他所から遊びに来ている車が国道等を多く走っていたように感じた。交通事故防止のためにも、なるべくメインの道路では、パトカーの姿を見せる活動をしていただきたい。

また、車を運転中、カーブで中央線を大きくはみ出した車とぶつかりそうになったことがある。相手の車は、スピードの出し過ぎで中央線をはみ出したと思うので、このようなことが原因で起こる交通事故を防止するためにも、パトカーの姿を見せて効果が上がるようにしていただきたい。

(交通課長)

パトカーについては、常時、赤色灯を点灯させて幹線道路を中心とした警ら活動を行うことで、見せる活動に取り組んでいる。

(委員)

横断歩道における歩行者優先に関する交通違反の取締りについては、いまだ市民に浸透していないように感じるが、運転手が横断歩道と認識していない場所があることや白線が消えかかった横断歩道があることなどもその原因の一つではないかと思うので、今後、このような点を改善していく必要があるものとする。

(交通課長)

当署では、横断歩行者等妨害等として昨年149件を検挙しており、前年と比べて100件増加している。ご指摘のあった白線が消えかかった横断歩道について

ては、当署管内にも多数あることは把握しており、警察本部に対して、順次、塗り替え等を上申している。

(委員)

以前も話になったが、法定速度に至らない遅いスピードで走る車も多く、その車がいなくなった途端に、これまでの時間を取り返すかのようなスピードで走り出す車も多いように感じるが、最低速度違反の取締りはできないものか。

(交通課長)

法定速度や規制速度は、最高速度を示したものであり、それ以下の速度で走る車を取り締まることは難しいところがあるが、あおり運転等を防止するためにも、ゆっくり走りたい場合は、なるべく道を譲って走るよう指導している。

(委員)

実際に災害が発生したら、通信がつかない、インターネットも使えないなど、通信面においても問題が発生すると思う。

災害等の緊急時、交番や駐在所では無線を使って連絡するのか。

(警備課長)

緊急時には、警察無線や携帯電話、衛星電話を使用して通信を行うこととなり、状況に応じて有効な通信手段を選択することとなる。

(委員)

衛星電話は、交番等にも配備してあるのか。

(警備課長)

衛星電話は、警察署にしか配備していない。

(委員)

昨年、周防大島町で土砂災害が発生した際、警察署が調査した上で独自に通行可能箇所を示すマップを作成したことについて説明があったが、どれくらいの規模で調査したのか。

(警備課長)

車両9台程度で、それぞれが道を通ってみて「通れるか」「通れないか」「どこで行き止まりになるか」等を調査して、その状況を地図に示したものである。

今後、災害等があった場合に、役立てたいと考えている。

(委員)

「どこが通れる」「どこが通れない」を知ることは重要なことだと思う。

南海トラフ地震に備える意味でも良い取組だと思う。

(署長)

現在は、やはり人海戦術となっているところがある。

今後は、ドローンを利用して空から見ることで、より早期の現状把握も必要ではないかと考える。

(委員)

災害時に、警察が収集した情報に対して、皆が接することができるようになれば安心できると思う。

(署長)

災害避難に関して、これまでは一人でも多く避難させることを考えていたが、これからは新型コロナウイルス感染症等を考慮し、密を避けることも必要となり、避難方法、避難場所等も多様化していくと思う。

指定された避難場所に行く人だけでなく、自宅にいる人、親戚や知人方に行く人、車の中にいる人等もいることから、警察としては「あの人はどこに行っている」ということを確実に把握することも必要だと感じている。

(委員)

特に災害時は、自助、共助、公助それぞれが重要だと考える。

(委員)

話は変わるが、新型コロナウイルス感染症に対するトラブル的なこと、詐欺等はなかったのか。

(署長)

新型コロナウイルス感染症に起因したトラブルや詐欺等を認知することはなく、事件化することもなかった。しかし、今後、そのようなことが起こり得るということを想定して活動しているところであり、そのような被害にあった場合には遠慮なく相談していただきたい。

(委員)

柳井警察署は、出入口に非接触型体温計を設置していないのか。

(警備課長)

当署には設置しておらず、署員は、毎朝、各自で検温を実施することで対応している。

6 配布資料

業務説明資料（警察署作成）

7 次回警察署協議会開催日程

次回警察署協議会は、令和3年5月又は6月に開催予定である。